2023 年度　学校法人 三幸学園　仙台医療秘書福祉＆IT 専門学校
自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 ： 教務課長　真田　美陽
学校関係者評価報告責任者 ： 学校関係者評価委員会委員長　沼田　健一

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。
また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

■学校運営について

2023 年度は全体会議等を通して方針・目標を全体に浸透させ、全教職員一体となって生徒指導に取り組むことができた。
デジタル化の浸透により情報共有がスムーズになったり、コミュニケーションツールのデジタル化を進めたことにより解釈の差異や就職先との認識にズレが生じてしまうこともあったため、対話も大切にしながら、情報共有を徹底して行う必要がある。

■教育について

教務では「自律と主体性」を軸に生徒に教えすぎず、自ら考えさせることを意識し、指導を行った。結果、就職率も継続して高く（就職率 99.5%）、資格取得率も全国平均を超えているものが多く、医療機関や保育園、福祉施設の方による実践的教育も行うことができた。
チーム担任制により、複数教員が生徒の状況を把握しサポート体制を整えることができているが、2023 年度は目標喪失や人間関係の悩みにより退学者が前年度より大幅に増加したため、職業を意識した動機付けや理想と現実のギャップを埋められるような取り組みが必要だと感じている。
また、デジタルテキストの活用を開始したが、各自のネット、端末環境等により不具合が見られたため、教室のネット環境を強化する等、2023 年度は試行錯誤しつつ対応した。
2022 年度卒業生を対象に同窓会を実施し、卒業生の早期離職防止や卒業後人材交流に努めた。

■その他

広報活動においては、新学科の設立に伴い、新たな分野を開拓し、入学者を獲得している。

また、2023 年度は留学生の入学希望もあったため、今後留学生への広報活動も意識していく必要がある。

② 学校関係者評価委員会コメント

入職後の離職率や離職理由に関して医療現場ではどういった理由があるのか（阿部さん）

・看護部門の離職が多い。事務に関していうと結婚や自分でやりたいことを見つけたなどといった理由が多い。離職率に関しては前年度とあまり変わらない。（一條委員：医療秘書科・診療情報管理士科）

高校分野ではタブレットを利用した授業が多いが、その際に教職員向けにどのような研修を実施したのか（阿部さん）

・研修に関しては教職員の全体会議を通して小まめに行った。今の高校生はデジタルテキストの使用が当たり前なので、その点も全教職員に理解してもらいながら研修を行っている。仙台地区では同法人の高校分野合同で研修も行っており、初めはパワーポイントの使用が分からない教員が多かったが現在は定着している。（高橋委員：医療秘書科・診療情報管理士科）

現場での留学生はコロナ渦前と後で変化があったか（阿部さん）

・現状は円安の影響が出てしまっているので、日本での就職意欲はあまり高くない。しかし逆に日本語学校へは少ない資金で入ることができるため、入学し易い環境ではないか。専門学校に入ることは追い風になっており、増加傾向にある。どこの専門学校がいいのか、費用は安く済むのか、授業内容が良いのか等吟味している。（八重樫委員：介護福祉科）

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・本校では「相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材」を育成人材像に掲げ、指導している。

一方、目指す業界では上記とともに、素直な心や感謝の気持ち、気持ちの良い挨拶ができる人材を求められるため、基本的なマナーや考え方を教職員が授業、就職指導において統一して指導していくことが必要である。

・離職率の改善も求められることから、医療機関や保育園、福祉施設との情報交換も重要である。

・学校として業界の動向を把握・理解する必要があり、その情報を授業と就職指導に活かす事が重要である。

② 今後の改善方策

・教職員が教えすぎず、考えさせる指導を意識し、生徒の意見を傾聴し、引き出すこと、出ない場合はヒントを与え、考えを導くことが大切。

・授業時の号令はもちろんのこと、日々の挨拶においても教職員が率先して行っていき、教職員がお手本となって、感謝や素直な心を育てる働きかけが重要。

・就職先へのヒアリングや学校関係者評価委員会等での意見を反映させ、より現場で活躍できる人材を育成する。

③ 特記事項

・保護者様へ学校理解をしていただくため、オンラインでの入学前説明会を開催した。

・保護者様へ担任からのコメントと写真を掲載し、クラスだよりを年度初めに郵送した。

④ 学校関係者評価委員会コメント

理念・方針の浸透を図るために行っている内容を教えて頂きたい（阿部さん）

・ネームプレートの裏面に理念を貼っており、いつでも見返しが可能になっている。また、年度初めに理念の確認表を配布し自身でチェック項目の評価を付け、再確認する時間を設けている。（斉藤委員：医療秘書科、診療情報管理士科）

・ネームプレートの裏に理念を書いている。また、電子カルテを開く前のページにも理念が掲示されている。（那須委員：医療秘書科）

→学校でもネームの裏に理念を貼ることは即実施可能かと思う（本田さん）

患者へのクレーム対応、共有、対策への浸透を教えて頂きたい（阿部さん）

・患者様相談室が設置されており、そこで一括して対応を行っている。内容によって各所に振り分けをし、対処すべき場所で対応をしてもらう。情報共有・伝達に関してはメールや紙、様々な対応を取っている。（一條委員：医療秘書科・診療情報管理士科）

紙での伝達の際はどのような内容を記載して共有しているのか（阿部さん）

・患者様向けには掲示板への発信を行っている。機微な情報の場合には対策を取ったあとに周知出来る内容等を精査し、会議内で情報共有を行っている（一條委員：医療秘書科・診療情報管理士科）

考えさせる指導方法で工夫されていることはあるか（阿部さん）

・50 分の授業の中で、初めの 10 分間は講義形式で行う。聞いているだけでは興味関心を引きにくいのでタブレットを使用し、生徒からリアルタイムに意見集約を行うなどといった方法を取っている。ただ聞いているのではなく、生徒も考えながら授業に取り組めているのではないか。（高橋委員：医療秘書科・診療情報管理士科）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務･財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

･業務処理や授業内容において、ICT の導入などを推進しているが、教職員間でのスキルレベルの差が生まれている。

･学校運営面ではコンプライアンス遵守の理解と、生徒指導においては、ハラスメント防止や多様化する生徒への理解や対応が求められる。

･学外実習先の確保と実習先との連携が必要である。

② 今後の改善方策

･業務においてのシステム化や ICT ツールを用いて効率化を図るだけではなく、マニュアルの共有や使用方法のレクチャーを実施する。

･授業運営力の向上を図るための研修を実施する。

③ 特記事項

･常勤メンバーを対象に学園本部よりコンプライアンス研修の実施。

･全体会議でのハラスメント事例の共有や注意喚起の実施。

･SSWとの連携による多様化する生徒の支援強化。

④ 学校関係者評価委員会コメント

コンプライアンス研修等の研修頻度や対象者はどのようになっているのか（阿部さん）

･1 か月ごとに実施しており、担当者への内部監査･指導を定期的に実施している。外部の監査に備える内部監査の実施も定期的に実施している。（八重樫委員：介護福祉科）

･3 か月に一度実施している。ハラスメント委員会もあり、何かあった際はすぐに報告できる環境にしている。内容はすぐに共有され、対象者への指導が行われる。相談窓口も設置されており、対面もしくは電話での相談が可能である。（那須委員：医療秘書科）

研修やハラスメント対策等で取り組んでいる内容の中で共有頂けそうな事案はあるか（阿部さん）
・男性、女性で窓口が異なる。専門の方ではなく、次長や総務が窓口になっている。（斉藤委員：医療秘書科・診療情報管理士科）
・非常勤講師と常勤での生徒情報の伝達のスピードが異なる。生徒情報共有はタイムリーに発信するためにチームズを活用している。（高橋委員：医療秘書科・診療情報管理士科）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成･実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育･実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫･開発などが実施されているか	4
関連分野の企業･関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成･見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技･実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施･評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価･単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務･兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識･技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

･資格取得に向けて授業運営に取り組んでいるが、どうしても授業内容が例年ベースになっており、多様化する生徒の要望や時代の流れに沿った内容に改良することが求められる。

･教員の指導力向上のため、定期的な勉強会が必要である。

② 今後の改善方策

･授業アンケート等の各種アンケート結果に対し、各自振り返りの時間を設けるとともに学校としての改善項目を明確にし、よりよい教育が提供できるように取り組む。

･教員同士の授業見学を行い、自身の授業に取り入れられる内容はすぐに実践する。

･医療機関や各施設等の訪問の際に、教員として紹介いただける方がいないかヒアリングする。

③ 特記事項

･特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

学校で授業を受けていた頃と現場でのギャップはあったか（阿部さん）

・電子カルテの作業の方法が授業内で習っていたものと現場でのソフトが異なるため、戸惑った部分があった。しかし、紹介状を作成する際は授業内での内容が役に立った。（那須委員：医療秘書科）

魅力ある授業作りのために講師の先生方に伝えていることはあるか（阿部さん）

・教育方針をしっかり伝えること、社会で求められる人材を育成するための教育を伝えている。また、活発な講師の先生が多く、生徒達が飽きない授業を実施してくれているため、そういった授業を見て学ぶ点も多い。（高橋委員：医療秘書科・診療情報管理士科）

教職員が現場を実際に見学させて頂くことは可能か（本田さん）

・教職員を対象とした一日仕事体験を実施している。以前は 4 名の受け入れを行った。今後も仕事体験の実施を続けていこうかと検討中である。（一條委員：診療情報管理士科）

・リハビリの学校の先生方の学校見学依頼が多い。一週間程度の実施。自分の自己研鑽の場を設けることは大事なのではないか。（八重樫委員：介護福祉科）

2024 年度の授業をスタートさせるにあたり、講師の確保に苦戦した。また、美容医療コース開講や WEB デザイン・IT 科の設立に伴い、そういった業界や業種の方を確保することも同様に苦戦した。講師の退職に伴い、医師免許を持っている講師の人材不足が感じられるが、実際医療現場からの派遣は可能かどうか（阿部さん）

・働き方改革が進み、収入が一定数減ってしまった先生方も居るのではないか。時間調整等が可能であれば学校への派遣も可能かと思われる。（斉藤委員：医療秘書科、診療情報管理士科）

・授業形態を必ず対面での実施という部分をクリアにすれば可能なのではないかと思う（一條委員：診療情報管理士科）

本校では 8 学科を設けている。様々な資格を持った講師人が必要である。今後、ご協力の声掛けをさせて頂く場面があるかと思うが、ぜひご協力頂きたい（阿部さん）

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

・退学率の低減のために目標喪失させないような授業運営、生徒サポートが必要である。

・就職においては、本人の希望や意思決定をなるべく早くできるよう、就職活動対策の早期化が重要である。

② 今後の改善方策

・退学率低減のために、目標喪失にならないような働きがけや目的意識、動機付けが大切であり、面談や日々の授業態度等から生徒の変化に気づき、タイムリーに対応できるよう意識する。

・就職活動においては、保護者連携も強化し、ご家庭と連携しながら、本人が意思決定しやすいような環境づくりを整える。また早めに見学や企業説明に参加を促すことを心掛ける。

③ 特記事項

・就職率

医療秘書科:98.9%　医療事務科:100%　くすりアドバイザー科:100%　診療情報管理士科:100%

歯科アシスタント科:100%　医療保育科:100%　介護福祉科:100%

④ 学校関係者評価委員会コメント

高校での退学率防止のために実施していることはあるか(阿部さん)

・通信制の学校では毎日来ることが前提ではない。保護者様との密な連携が大事になってくる。本人の体調が悪くなった際の対処方法などの確認は事前にしっかりと行っておく。その点が退学防止に繋がっているのではないか。また、面談の中で退学ではなく、理由によっては休学の対応を取るなどの提案をしていくことも退学防止に繋がっているのではないか。(高橋委員:医療秘書科・診療情報管理士科)

通信制の高校から専門学校へ入学後の通学スタイルの変更の動機づけはあるか(真田さん)

・進路活動の中でオープンキャンパスへの参加や授業体験をしてくるように進めている。高校から専門学校へのギャップを在学中に無くすように生活習慣等の指導を行っている。(高橋委員:医療秘書科・診療情報管理士科)

毎日通学するにあたり、こちら側の声掛けやモチベーションを上げる対策はあるか(真田さん)

・まずはなぜ来られないのか原因を探る。大勢が苦手、授業についていくことが出来ない、先生との関係性で悩み通信制高校を選ぶ生徒が多くなっている。それらの悩みをカバー出来る安心感や、先生が居てくれることで安心出来るから学校に行くというまずはその一歩を大事にしている。(高橋委員:医療秘書科・診療情報管理士科)

現場での経験が無い担任が多い。医療機関訪問の際に病院やクリニックの特徴などをヒアリングさせてもらい、生徒へ伝えてはいるが、在学時に医療機関のどういったことを事前に知りたかったか。（阿部さん）
・就職する病院での院内体制や、雰囲気を知りたかった。また、具体的な話にはなるが技術面以外にも先輩方との関わり方や人間関係の築き方も知りたかった。（那須委員：医療秘書科）
・「働くこととは」「社会人になることとは」といった点がもっと在学中に学べたら良かった。（斉藤委員：医療秘書科・診療情報管理士科）

「働くとは」「社会人になるとは」といった部分を生徒に伝えていくことが大事だと感じた。その点を強化していきたい。（阿部さん）

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路･就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校･高等専修学校等との連携によるキャリア教育･職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

･生徒が相談できる体制はあるものの、現場経験のある担任が少なく、納得感を得られるアドバイスが不足している可能性がある。

･チーム担任制により、生徒自身が誰に相談すべきか判断に迷っていたり、教員間で連携がなされているのかと不安を感じやすい環境にある。

･保護者への連絡は行っているが、単位不認定等タイムリーに出来ていない時やなかなか連絡がつかない等があり、連絡手段に課題感を感じる。

② 今後の改善方策

･医療機関や各施設の方をお招きし、教職員向け研修の実施や卒業生より学生と社会人とのギャップの講話を依頼し、担任力の向上を図る。

･相談窓口等を明確にし、相談を受けた内容を共有する際は生徒へ事前確認の上、共有する旨を伝え、安心感を与える。

･保護者へ単位不認定の連絡についての書面を簡素化して、わかりやすくし、今後の流れとともに郵送する。

③ 特記事項

･カウンセラーや SSW との連携等、生徒が相談する体制や連携は整っている。

･入学前の不安を解消するために生徒、保護者ともに入学前アンケートを行い、必要に応じて連絡をしている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

入職してくる生徒達を見て感じることや専門学校でもっと伸ばしてほしい部分はあるか。（阿部さん）

･最低限のマナーは身に付けられている。コロナ禍に伴いコミュニケーション能力が低い新人が多くなっているように感じる。基本的な挨拶等が出来るなど最低限の部分が出来ていれば、医療の知識に関しては自分が持っているものに付加価値を与え、今の与えられた仕事を行えば良い。今まで勉強したものを十分に発揮出来るような環境を

作り送り出して頂きたい。（一條委員：医療秘書科・診療情報管理士科）
・問題解決能力や危機管理能力の部分でリスク回避するための思考を持つことが大事だと感じる。就職面接の中で気になることが無い、分からないことを分からないままにしておく人が多い。また自発的な発言が出来ない方が多い。授業も大事ではあるが、社会人の方との交流会や研修を実施してはどうか。（八重樫委員：介護福祉科）

現場では相談内容によって窓口が異なるのか（阿部さん）
・分野で細かく相談窓口を設けてはいない。業務で滞った際は直属の上司に一旦相談している。誰でも相談出来る環境に一人一人がなれると良い。そういった組織作りも大事だと言える。知識を発表する場や発揮する場を設けることも大事だと言える。（斉藤委員：医療秘書科・診療情報管理士科）
・学ぶことも大事だが、知識を発揮する場を設けることも学校では大事ではないか。検定に関しては講師の先生、就職ではエリア担当の先生など相談内容によって変えられることが良かった。（那須委員：医療秘書科）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設･設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災･安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

･コロナ禍が明けたものの、生徒数の増加や医療現場の人手不足という現状もあり、特に医療機関において実習現場の確保が難しい。

･施設、設備において一部老朽化、不備が発見されたため、修繕が求められる。

② 今後の改善方策

･医療機関においては病院だけではなく、クリニックでの実習も視野に入れられるよう働きかける。

･不備、老朽化箇所に関しては速やかに修繕し、事故等につながらないよう担当者中心に管理を行う。

③ 特記事項

･教職員向けに災害や緊急事態発生時の役割を周知し、適切な対応ができるように避難訓練を実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

校内環境で整えて欲しかったことはあるか。（阿部さん）

･トイレがもう少し広ければ良かった。廊下の音が響きやすい。エレベーターが 1 台しかないので移動に時間がかかった。（那須委員：医療秘書科）

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・アンケート結果より入学前後での学校生活にギャップを感じている生徒がいる。

・留学生のオープンキャンパス参加が増えてきているため、留学生対応や日本語学校との関係性構築が必要である。

② 今後の改善方策

・SNS 等を活用し、学校生活の情報を発信し続けていく。

・生徒にヒアリングを行い、ギャップに感じたことを把握し、適切な説明を実施できるよう教職員間で共有する。

・日本語学校への訪問を行い、留学生の動向や受け入れについて把握する。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

入学前後のギャップはあったか。（阿部さん）

・入学してから男子生徒が少ないことにギャップを感じた。しかし実際の病院現場だと女性が多いので、その点では学生時代の環境と相違を感じなかった。また、SNS 発信の中で合格率や資格習得数などのアピールをもっとしていったら良いのではないか。（齋藤委員：医療秘書科・診療情報管理士科）

・検定 WEEK の際の授業変更をもっと詳しく聞きたかった。医療事務だけを勉強するだけかと思っていたが、それ以外の授業内容をもっと知りたかった。（那須委員：医療秘書科）

留学生の入国者数、日本語学校の進路先を知っていれば教えて頂きたい。（阿部さん）

・宮城県内の外国籍の入国者数が 1%に到達している。日本語学校に進学を決める方が多くなっている。就職に関しては円安に伴いそこまで多くはない。日本語学校の進路先は専門学校の割合が高くなっている。また、IT や建築系も割合としては高い。2 年間の学費を自身でアルバイトをしながら支払う。そのため、支払える学費の学校を選ぶ傾向にある。質よりも金銭的な部分で選ぶ留学生が多いのではないか。（八重樫委員：介護福祉科）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算･収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算･収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・引き続き、個人情報保護や関係法等において、法令順守の教職員意識の向上。

② 今後の改善方策

・個人情報保護の観点では、事例共有等を行い、法令順守の意識づけを徹底する。

・セキュリティ対策等、正しい知識や情報を教職員へ発信し、法令順守の啓蒙を行う。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

点数改定や法律の変更があった際は現場ではどのように周知しているのか。（阿部さん）

・個人情報保護に関しては年に一回全員が学習する機会が設けられている。変更があった際はその都度発信内容の確認をする体制を取っている。（一條委員：医療秘書科・診療情報管理士科）

現場では点数改定や法律の変更についてどういった研修が実施されているか（阿部さん）

・医師事務の研修や電子カルテの使用方法などの研修があった。また、個人情報の漏洩があった際は事例共有があり、今後の対応策について共有される。そういった研修への参加に関しては課から一人とし、その方から課内に共有されている（那須委員：医療秘書科）

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・生徒へのボランティア活動の奨励や案内の実施ができていないため、検討する必要がある。

② 今後の改善方策

・学校へ案内のあったボランティア活動については積極的に告知を実施する。

③ 特記事項

・近隣やつながりのある保育施設の園児を招き、保育行事を実施する。

④ 学校関係者評価委員会コメント

専門学校の生徒が現場に行った際に行えるボランティア活動や機会はあるか。（阿部さん）

・待合室での椅子の出し入れ等があるのではないか。（斉藤委員：医療秘書科・診療情報管理士科）

・高校では仙台市や地区で案内を行っている。専門的な知識が無いため、限られた内容になってしまう。ただ、生徒の需要はあるので夏休み期間中のボランティアなど積極的に案内している。（高橋委員：医療秘書科・診療情報管理士科）

・図書整理をボランティアで募っている。現状としては一般に募っている状況である。（一條委員：医療秘書科・診療情報管理士科）

(11)国際交流

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

・留学生が入学にあたり、学費ネックが多く、卒業後の就職を前提とし、学費支援をしていただける施設や経済支援制度等を探すことが難しかった。

・留学生の受け入れ先（実習・就職先）の確保とともに日本語能力の向上や、日々の授業サポート体制の充実が必要である。

② 今後の改善方策

・施設等訪問の際に留学生の支援についてご依頼やヒアリングを行う。

・日本語学校や関係機関との連携を強化し、留学生の受け入れについて学校としての理解を高められるよう教職員研修を実施する。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

在留資格介護を取る上で、支援企業の確保は宮城県内ではどういった現状か。（阿部さん）

・どのくらいの施設が支援企業になり得るかではなく、介護人材が不足しているのか飽和状態かで考えていくと、宮城県内では介護人材の不足はあったとしても、介護施設内では介護職員が不足した場合は利用者の新規受入を行わないため、施設内において人材が足りなくなることは無いのではないか。また外国人の介護人材受け入れの仕組みとして、特定技能の場合は在留資格介護より人材確保がしやすいと考えられるため、留学生の支援企業に関しても減っているのではないか。さらに、介護の魅力を伝えきれていないのではないか。専門学校では 1.5 倍増えている学校もあると聞いている。その現状を踏まえるとまだまだ需要はあるのではないか。（八重樫委員：介護福祉科）

昨年度は支援企業を探すことに苦戦したところがあった。引き続き企業訪問を行い、留学生が入学し易い環境を整えていきたい。（阿部さん）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・留学生が今後もさらに増えていくのではないか。もっと SNS を強化すると学校が周知されるのではないか。私自身も見るのを楽しみにしている。（那須委員：医療秘書科・診療情報管理士科）

・全体的にとても良い取り組みを行っていると感じる。これから専門学校の需要は増えていくのではないか。引き続き頑張って頂きたい。（一条委員：医療秘書科・診療情報管理士科）

・進路の進学先として昨年度は 3 分の1が仙台医療秘書福祉＆IT専門学校に進学している。人に関すること、心の部分で自分の経験があるからこそ勉強しやすい環境なのではないか。通信制高校からの入学者が多いとのことで今後も連携を取れればと感じている。（高橋委員：医療秘書科・診療情報管理士科）

・検定合格率や就職率 100％等の数値を見て入学を選んだ経緯がある。その点が魅力だと感じている。学校としては留学生の受け入れを積極的に行いたいところではあると思うが医療業界としての受入窓口は少ない。（斉藤委員：医療秘書科・診療情報管理士科）

・生徒のために出来る限り良い環境を整えていこうという先生方の取り組みに好感を持った。
実際にこれからどうしていくか検討して行動していかないと自然と消滅してしまうことも多い。いかに実行するために腹に据えて行うか気持ちが大事だと感じた。（八重樫委員：介護福祉科）

日々目の前にいる生徒対応に追われ、入学前の高校時代の過ごし方や就職後の現場での過ごし方の部分で意見を頂くことが中々ない。今回このような意見を頂いたことを他の教員にも共有し、今年度の学校運営にも活かせるものはすぐに活かしていきより良い学校運営を目指していく。（真田さん）